

学院史編纂の意義と展望

関西学院大学名誉教授・学院史編纂室顧問 神田 健次



カナダ・アメリカへの資料収集の旅

学院の歴史編纂と筆者の関わりは、1986年の夏に二週間、当時の室長小林信雄先生と山内一郎先生と共に北米の宣教師資料の調査・収集のために、カナダのトロントにあるカナダ合同教会（UCC）のアーカイブ及びアメリカのドルー大学におけるメソジスト資料のアーカイブに出張したことに原点がある。そこで、ランバス宣教師やベーツ宣教師等、学院に大きな足跡を残された宣教師の方々に関する資料調査と収集を集中して行うことを通して、歴代の宣教師に関わる一次資料に出会い、学院史研究の重要性を深く自覚させられた。それ以降、学院史研究に関わる機会が与えられ、これまで学院の百年史の共同編集のプロジェクトに参与し、『関西学院百年史全四巻』（1994-98年）、『関西学院事典』（2001年）、『増補改訂版 関西学院事典』（2014年）等を共同で刊行した。

学院史の共同研究の経験から

『百年史』編纂のプロセスから、1991年以降学院史研究の成果を公表する『関西学院史紀要』が刊行された。特に専従の研究者がいない中、『紀要』が30号に至るまで継続して刊行されてきたことは、重要な意義をもっている。筆者は、W.R.ランバスやC.J.L.ベーツ、H.W.アウターブリッジ等の宣教師について研究論文を寄稿し、共同研究として「宣教師研究」を推進してきた。これまでW.R.ランバス著『医療宣教：二重の任務』（2016年）、あるいは『ベーツ宣教師の挑戦と応戦』（2019年）等の共同の研究成果を刊行する機会が与えられた。また忘れがたいのは、戦前の韓国からの留学生に関する共同研究である。約100名近い神学部の留学生を、韓国の監理教神学大学の李徳周教授との共同研究を通して、その全容を解明できたことは、この分野では先駆的な意義をもっている（『学院史紀要』第15号、第16号を参照）。さらに戦時下との関連では、特に中央講堂東側の広場に建つ旌忠碑の記念碑に関する共同研究があげられる。この碑は、1939年10月の創立50周年記念式典の一環として定礎式が行われ、翌年2月に完成している。石碑には碑文と日清戦争以降の学院関係戦死者168名の氏名が刻まれている。2001年に、この石碑の歴史的位置付けと平和への祈りとそのための働きを示したプレートが据えられ、この碑に関する『関西学院史紀要 資料集I 旌忠碑』（2004年）が編纂された。

建学の精神とスクールモットー

学院の寄附行為第3条に明記されているように、「キリスト教主義」に基づく教育が学院の建学の精神であり、またベーツ院長によって提唱された「マスタリー・フォー・サーヴィス」がスクールモットーである。学院の重要な背骨とも言える建学の精神やスクールモットーは、これまで各時代状況の中で新たに受け止められてきたが、それらが曲解され歪められることのないように、歴史編纂や共同研究によって繰り返し検証されてきた。学院史研究の共同研鑽を、教職員や学生にその成果を還元する上で、まさにこの点が肝要である。学生の教育に還元してきたもう一つの試みは、1995年の秋学期より学部の垣根を超えた総合コース「関学」学を開講し、来年で30年を迎えようとしている。このような試みは「自校教育」と呼ばれ、私立大学の重要な柱ともなっている。また大学博物館の常設展示は、これまで培ってきた編纂室の資料収集・整理と研究成果を反映したものであり、自校教育の一環と位置づけることもできる。

今後の課題と展望

まず編纂室の主要な任務は年史編纂と言えるが、大きな課題としては150周年の年史編纂をどうするかということであろう。既に『百年史』全四巻が刊行されているので、例えば、それ以降の50年の歴史を、写真を豊富に織り込みつつ編纂することも可能な方法である。どの方法を選択するとしても、125周年に刊行した『関西学院事典 増補改訂版』はデジタル化されているので、それを150周年にむけて更新しつつ活用してゆくということは容易に着手できることである。もう一つの重要任務は、やはり地道な共同研究を推進して『学院史紀要』の一層の内容的充実を図るということである。従来の「宣教師研究」と「戦前・戦中・戦後」に加え、「オーラルヒストリー」と「学問と社会」が新たにスタートしたことは喜ばしいことである。このような共同研究が一層充実することによって、建学の精神とスクールモットーの新たな理解と深化を求めつつ、教職員や学生、同窓への還元が可能となるであろう。最後に言及したい任務は、ランバス宣教師関連の学校と教会との連携と協力である。学校に関しては、既に合併した聖和大学の年史編纂には協力しているが、他に啓明学院と広島女学院、併せてランバス宣教師が展開した瀬戸内宣教圏の諸教会との連携と協力も必要と言えるであろう。

（かんだ けんじ）